

第7期四国中央市自立支援協議会 第3回会議 議事録

| | | | | | |
|--------------|--|----|------|----|-------|
| 開催日時 | 2020年11月26日(木) 19:00 ~ 20:15 | | | | |
| 開催場所 | 四国中央市市民交流棟2階会議室 | 司会 | 越智 寛 | 記録 | 石川恵美子 |
| 参加者 (敬称略) | 藤枝俊之・清家 孝・一柳栄一・近藤秀光・宮崎憲士 石水太一・大西未佳・高橋隆晋・藤原夕紀・鈴木秀明・曾我部綾・藤田昌子 以上委員12名 大西 緑(福祉部長) オブザーバー | | | | |
| 事務局 | 越智寛・高橋哲也・石川恵美子・青木重臣 | | | | |

協 議 内 容

1. 開会

コロナ禍であるため、本日の会議については1時間を目処に進行したい。

2. 会長挨拶

コロナ禍ではあるが、後ろ向きなことばかりではいけない。振り返れば、過去にはスペイン風邪、ペスト、天然痘など大きな感染症との闘いを経験して、その中でも乗り越えてきた経緯がある。新型コロナも大きな変革の時代ととらえ、福祉も大きく前進するチャンスかもしれない。既存の概念だけではなく、自由な発想で取り組んでいかなければならない。タイトな時間設定の中ではあるが有意義な協議をお願いしたい。

3. 議事(議長:藤枝会長)

協議事項(1) 第6期障がい福祉計画及び第2期障がい児福祉計画(案)について

【第6期障がい福祉計画及び第2期障がい児福祉計画(案)】(事務局:青木より資料説明)

質疑応答・・・なし。

(議長) 本案件について決議を致します。賛成の方は挙手をお願いしたい。

全員一致で、本案件は可決されました。

協議事項(2) 連絡会及び各専門部会より活動報告について

① 資源開発部会(部会長:大西) 資料6ページ

今年度、これまでに5回部会を開催した。主な活動として、先ほど承認いただいた障がい福祉計画について、第6期資源開発部会が行ったニーズ調査を反映させるべく、素案の作成に協力した。12月からの部会では、最重要ニーズから「福祉情報の提供、周知」に焦点を当てて検討を行う予定。部会員からの柔軟なアイデアを募って始めていきたい。

② 権利擁護部会(部会長:高橋) 資料7ページ

部会開催は今年度4回開催した。

活動内容として、先ほどの障がい福祉計画にもあった成年後見制度利用促進について、基本計画に基づいて、今後、どのように権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築に向けた実効性

第7期四国中央市自立支援協議会 第3回会議 議事録

のある体制づくりができるのか検討している。まずは、広報が重要と考えている。また、後見事務に関する意思決定支援ガイドラインも出されているので、あわせて周知していくようパンフレット作成など検討していく。

③ 地域共生部会（部会長：藤原）資料8ページ

部会開催状況は4回。活動内容として「地域で共に生きる（暮らす）を支援する」を目標に掲げ、以下の2点について活動している。①支援者研修会の開催については、顔の見える関係構築をあげているが、このコロナ禍の中、3密状態を回避するのは困難であるため、今年度は開催を見送ることとした。次年度新たな研修会のスタイルを模索していく。住民理解促進については、「ぼうさい学校」という形で開催してきたが、今年度は市報を利用した啓発活動を実施予定。内容は資料のとおり。今後の取り組みとして、ヘルプマークの普及啓発、サポーターマークの提案など。

④ 相談支援専門員連絡会（連絡会長：鈴木）資料9ページ

活動内容については、困難事例の簡易スーパービジョン、各専門部会等に参加しているので、その協議内容等を連絡会にて報告することで情報共有・連携強化、主任相談支援専門員養成研修の検討、「福祉なんでも相談会」の打ち合わせである。3月20日、中之庄公民館 60名までの参加を予定している。事業所マップの更新チームを設けて検討予定。

☆質疑応答・意見交換

（議長）権利擁護部会に質問。高齢部門の権利擁護との関係や流れとの違い、すみわけがあるのか。

（権利擁護部会長：高橋）

成年後見制度は高齢認知症や知的、精神障がい者など障がい種別の区分けはない。法律上は、判断能力にハンデのある方すべての権利を擁護するものである。わかりづらいのは、それぞれの施策を行政においては、高齢者を高齢介護課、障がい者については生活福祉課と、それぞれ同じ内容のことを別々の部署で担当しているので、外から見て非常にわかりづらい。例えば、市長申立ての場合は、高齢者の場合は高齢介護課、障がい者の場合は生活福祉課となっている。今回の利用計画については、そのような縦割りを排して、全体的に施策を進めていこうというものである。権利擁護部会では、障がい者だけに留まらず、高齢者についても検討していこうと考えている。

（議長）私自身が病院で老老介護されている人とのやり取りが難しく、また、成人を迎えた知的障がいの方とのやり取りも難しく感じる事が多く、相談に来られた時にどうつなげればいいのかわからないことがあるので、そのような困難に対応できるような制度の在り方が求められるのではないかと思います。

（議長）地域共生部会のサポーターマークの創設の件だが、私の病院にもオリジナルのTシャツやグッズがあるが、そこにサポーターマークもいっしょに付けていければいいと思うが、看護師であっても、障がい種別によって対応の仕方がわからないという

第7期四国中央市自立支援協議会 第3回会議 議事録

中、サポーターマークを検討する中で、障がい種別による対応の仕方みたいな冊子づくりや啓もうなど、抱き合わせで検討することはないか？

(地域共生部会長：藤原) 次年度にはなるが、サポーターマークを市内の店舗にも協力いただきたいと思っているが、その時に店舗の方々にも障がい支援対応について説明していく必要があることから、講演会や研修会を開催し、理解の普及に努めていきたい。

(議長) あまり高度なことになると市民一般の方には難しいことになるので、小さな一歩から積み上げていくというふうにすると、地域のサポートの輪が広がっていくのではないか。

協議事項(3) 地域共生社会への取り組みについて部会提案(地域共生部会長：藤原より)

資料10 ページ 資料①～資料②参照 鳥取・島根県の取り組み紹介

自立支援協議会 地域共生部会の1部会だけの取り組みではなく、地域共生社会の実現に向けて、協議会全体の取り組みとして検討していただきたい。

○ヘルプマークの普及啓発

○市内のさまざまなマークの理解とサポーターマーク(ステッカー)の創設

(既存のマークのすり合わせ、統合化が可能か検証)

☆質疑応答・意見交換

(福祉部長) ご提案の中で、福祉部の中でもいろいろなマークがあるということだが、マークについては、市が作っているもの県が作っているものなど、いろんなところで作っているものがあるので、まずは、どんなところがどんな目的でつくっているのか整理から進めていくのがいいのではないか。その中で、表現方法として「統一化」という言葉が適切かどうかわからないが、みなさんがサポーターであることがすぐわかるようなマークがあり、みんなが理解してくれるものになればよいと思う。まずは、全体を網羅したうえで、このマークがあるのだと理解してもらえるよう前向きに進めていくのがいいのかと思う。

(議長) マークの統一はそもそも無理である。それぞれ方向性がバラバラであるからである。ただ、マークには根っこの部分に理念があるので、その理念を拾い上げて、その理念に対するシンボルとするのがよいではないか。理念を表すシンボルを作っていくという考え方の方がよいと思う。予算についてはどうするのか。

(地域共生部会長：藤原) ここで決議をもらえれば、予算がもらえるのではないか。

(事務局：高橋課長) 広く考えたときに、この提案は地域共生社会の条例にも関係してくるものであり、障がいの分野だけでなく、子供や高齢者、生活困窮などすべて含めたボリュームのあることも可能であるし、細かくは、サポーターマークを持つまでにどういったプロセスを踏むのか、どういったサポートができるのか、そういった研修はどうするのか、もっと細かく詰めていく部分が必要であると思う。予算の話になったが、予算の話よりも、四国中央市の現状にあった取り組みというものはこういったものだと

第7期四国中央市自立支援協議会 第3回会議 議事録

言えるように内容を積み上げながら、はじめていろんな予算が見えてくると思う。自立支援協議会でまずはゴーサインを出していただいて、みんなで検討していくのが理想的な形だと思う。

(議長) なかなか難しい作業であり、自立支援協議会としての決意みたいなことになると思うが。

(一柳委員) このヘルプマーク、どういう風に自分の思いを伝えるか、常時マークをつけていることで、逆に周りの反応が悪くなるのではないか。どういう見せ方をするのか。

(地域共生部会長：藤原) ヘルプマークについては、常時つけておいてもらう。ヘルプマークの理解から周知していきたい。

(議長) 当事者にしてみれば、常時マークをつけないという選択もあるのかと先ほどの意見を聞いて気づかされた。利用の方法を当事者も学んでいく必要がある。

(権利擁護部会長：高橋)

ヘルプマークを付けている人が普通に周りにいるという社会こそが大事なのではないか。ちょっとした気遣いや困っていきそうだったら声をかけるというような「思いやり」を共有するためのシンボリックなものとして私は理解している。

(福祉部長) 高齢介護課では介護保険計画についても見直しの年、高齢者のことだけでなく、障がい者も含めた地域包括的なケアシステムの構築・計画を検討することになる。全世代型の地域包括ケアシステムをイメージしている。部局間で協議をしながら進めていく必要がある。

(資源開発部会長：大西)

資源開発部会のニーズ調査においても、障がい理解、普及啓発の課題があがっているので、是非できる協力は行いたいと思う。

(事務局：高橋課長)

あと、南海トラフの関係で、市の方でも防災に力を入れて、組織的にも体制を強力にしている。きっと、ヘルプマークは災害時に大変役立つものだと思う。ただ付けているだけで避難所において声掛けができるので、防災面も含めてヘルプマークの普及には取り組んでいく必要があると思う。市の防災担当とも話し合っていくことが必要である。

(議長) 本案件について決議を致します。賛成の方は挙手をお願いしたい。

全員一致で、みなさんの決議の元、進めていければと思う。以上で議事を終了する。

4. その他連絡事項 (事務局：越智)

(曾我部委員) 前回の協議会で就職準備フェアについて検討委員会を立ちあげてというお話をさせていただいたが、まだ、立ち上がってはいないが、過去に協力いただいた方に個別に相談し、来月検討委員会の開催に向けて準備中である。会が開かれたら報告したいと思う。

5. 閉会

次回、自立支援協議会の日程について。

感染症の流行状況によっては、書面開催となる可能性もある。次回、令和3年3月4日(木) 19時～20時予定。保健センター 1階 集団指導検診室

第7期四国中央市自立支援協議会 第3回会議 議事録